

年間授業計画

東久留米総合高等学校 令和5年度（2年次用）教科

地歴公民 科目 日本史探究

教科：地歴公民

科目：日本史探究

単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 選択D群、E群

教科担当者：（1：平澤）（2：及川）（3：福井）

使用教科書：（山川出版社 日本史探究『詳説日本史』/日探705）

教科 地歴公民

の目標：

- 【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養ったか。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権 律令国家の形成	旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 稲作伝播の様子などを踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 律令国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】旧石器文化～弥生文化の形成、律令体制の状況などについて、多面的・多角的に考察し、理解している。 【思考・判断・表現】考古資料や文献資料をもとに、旧石器文化～弥生文化の社会、律令国家の形成過程について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】古代の対外交渉の実態を明らかにしようとしている。	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
	貴族政治の展開 院政と武士の躍進 武家政権の成立	摂関政治や平安時代の文化、武士の成長過程について理解する。 院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 鎌倉時代の政治の動向、国際関係・経済・文化について考察する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】摂関政治、院政、平氏政権、鎌倉幕府の成立過程や特色について、理解している。 【思考・判断・表現】摂関政治、院政、平氏政権、鎌倉幕府の成立過程や特色について考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】平安時代の政治の在り方と文化との関係、鎌倉・室町時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
2 学期	武家社会の成長 近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開	南北朝の動乱から室町幕府の成立・安定・動揺について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 大航海時代を踏まえたヨーロッパ人の東アジアへの進出、織豊政権の特色と意義とその影響を考察する。 幕藩体制の成立と展開について理解する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】室町幕府の成立・安定・動揺と織豊政権、幕藩体制の特色と意義を理解している。 【思考・判断・表現】室町幕府の成立から動揺と織豊政権、幕藩体制の特色と意義を、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】東アジアの国際情勢の変化、中世から近世の国家・社会の変容を考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
	幕藩体制の動揺 近世から近代へ 近代国家の成立 近代国家の展開	幕藩体制の動揺を、国際情勢の変化を踏まえて理解する。 国際環境の変化に着目して、日本の開国と幕府の滅亡、新政府の発足について考察する。 明治新政府により近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 日清・日露戦争、第一次世界大戦の時期の政治の動向および対外政策の推移について理解する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】幕藩体制の動揺や開国と幕末の動乱、明治新政府のによる近代国家の基盤形成、19世紀終わりからの過程とその意義を理解している。 【思考・判断・表現】幕藩体制の動揺や開国と幕末の動乱、明治新政府のによる近代国家の基盤形成の過程とその意根拠を明らかに表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】近世後期から近代国家成立・展開期の諸事象を、国際的な視点から考察し、政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
3 学期	近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦 占領下の日本 高度成長の時代	資本主義国家の基盤が確立された過程を理解する。 恐慌による国内経済の動揺、日本の対外政策の推移、日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について考察する。 占領政策及び戦後の民主化政策、日本の独立について、その経過と内容を理解する。 独立後の日本国内政治、経済復興とその後の高度経済成長について、考察する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】産業の発達と恐慌による国内経済の動揺、日中戦争から第二次世界大戦、戦後の諸改革、高度経済成長について理解している。 【思考・判断・表現】産業の発達と恐慌による国内経済の動揺、日中戦争から第二次世界大戦、戦後の諸改革、高度経済成長について、根拠を明確にして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】産業の発達産業の発達と恐慌による国内経済の動揺、日中戦争から第二次世界大戦、戦後の諸改革、高度経済成長について、課題を明確にして主体的に追究している。	○	○	○	26
	定期考査						140

年間授業計画

久留米総合高等学校 令和5年度（2年次用）教科

地歴公民 科目 世界史探究

教科：地歴公民

科目：世界史探究

単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 選択D群、E群

教科担当者：（1：藤野

使用教科書：（山川出版社 世界史探究『詳説世界史』/世探704

教科 地歴公民

の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】多文化・多様化する現在の世界の状況を知るために、歴史総合で学んだ近現代史を応用しながら自発的に学ぶ。

科目 世界史探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
1 学 期	人類の誕生および西アジア世界と地中海世界	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・メソポタミアとエジプトなどの灌漑農業を基盤とした古代文明を、関心を持って学習しようとしている。 ・文明の果たした役割を追究しようとしている。 ギリシアやローマ世界の特色とキリスト教発展の意義を、関心を持って学習しようとしている。	○	○	○	28
	ヨーロッパ世界の形成と発展	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	上記の事項を把握し内容を理解できるとともに、領域や時代を拡大しながら 【思考・判断・表現】 歴史の課題について考察できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に学習できている。	○	○	○	28
	定期考査			○	○		1
2 学 期	中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編 アジア諸地域の帝国と第二次大交戦時代	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 モンスーン気候地帯に属している東アジア世界の風土とともに、黄河・長江の新石器文明から殷・周、秦・漢帝国という中華文明形成期の社会や文化の特質を追究しようとしている。・唐王朝が名実ともに東アジア文化圏を形成したことを、その築き上げた整然とした国家制度や文化から判断し、文章にまとめる。	○	○	○	26
	一体化に向かう世界	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 新航路の開拓事業や征服活動と、それに伴うアメリカ先住民社会の変容や商業革命に関して、意欲的に学習しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・大西洋世界で確立した三角貿易が西ヨーロッパ有力国にもたらした莫大な利益を、産業革命の前提条件である資本の蓄積と関連付けて考察し、文章にまとめる。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
3 学 期	地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 産業革命の世界史的背景、技術革新や交通革命の進展と波及について、関心を持って学習しようとしている。 【思考・判断・表現】 アメリカ独立革命が提起した近代市民社会の原理を、現代社会の諸問題と対比しながら考察し、文章にまとめる。 ・現代への影響について考察できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 AIやITなどの先端技術が発展するなかで、自分の進路や職業選択を考えることができている。	○	○	○	16
		・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【主体的に学習に取り組む態度】 ・さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。 地球世界の課題に関する主題を設定し、選択したその時代の資料を活用して探求し、表現する技能を身につけている。	○	○	○	14
							1
						合計	140

教科: 数学

科目: 文数Ⅱ

単位数: 4 単位

対象学年組: 第2学年 組～ 組

教科担当者: (組: 松原) (組:) (組:) (組:) (組:) (組:)

使用教科書: (東京書籍 数学Ⅱ Advanced)

教科 数学

の目標:

【知識及び技能】 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 文数Ⅱ

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明確・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	1章 方程式・式と証明	1 3次式の乗法公式と因数分解 2 二項定理 3 多項式の除法 4 分数式とその計算 5 複素数とその演算 6 解の公式 7 解と係数の関係	【知識・技能】 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 【思考・判断・表現】 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を方程式・式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	1章 方程式・式と証明	1 因数定理 2 簡単な高次方程式 3 恒等式 4 不等式の証明	【知識・技能】 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を方程式・式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
2 学期	2章 図形と方程式	1 2点間の距離 2 内分点・外分点 3 直線の方程式 4 2直線の関係	【知識・技能】 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。 【思考・判断・表現】 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	2章 図形と方程式	1 2直線の関係 2 円の方程式 3 円と直線 4 軌跡の方程式 5 不等式の表す領域	【知識・技能】 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 【思考・判断・表現】 数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
3 学期	3章 三角関数	1 一般角と弧度法 2 三角関数 3 三角関数の性質	【知識・技能】 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解している。 【思考・判断・表現】 三角関数に関する様々な性質について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	3章 三角関数	1 三角関数のグラフ 2 三角関数の応用 3 加法定理 4 加法定理の応用 5 三角関数の合成	【知識・技能】 三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解している。 【思考・判断・表現】 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
4 学期	4章 指数関数・対数関数	1 指数法則 2 累乗根 3 指数の拡張 4 指数関数とそのグラフ	【知識・技能】 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 【思考・判断・表現】 指数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を指数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和5年度（2年次用） 教科

数学

科目 理数Ⅱ

教科： 数学

科目： 理数Ⅱ

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 組～ 組

教科担当者： （ 組： 笠原 ） （ 組： 竹原 ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書： （ 東京書籍 数学Ⅱ Advanced ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 理数Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 章 方程式・式と証明	1 3次式の乗法公式と因数分解 2 二項定理 3 多項式の除法 4 分数式とその計算 5 複素数とその演算 6 解の公式 7 解と係数の関係	【知識・技能】 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 【思考・判断・表現】 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を方程式・式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	○	○	○	16
定期考査			○	○		1
1 章 方程式・式と証明	1 因数定理 2 簡単な高次方程式 3 恒等式 4 不等式の証明	【知識・技能】 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を方程式・式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	○	○	○	20
2 章 図形と方程式	1 2点間の距離 2 内分点・外分点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 5 円の方程式	【知識・技能】 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。 【思考・判断・表現】 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	○	○	○	16

	定期考査						○	○		1
2 学 期	2章 図形と方程式	1 円と直線 2 軌跡の方程式 3 不等式の表す領域	【知識・技能】 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 【思考・判断・表現】 数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。				○	○	○	10
	3章 三角関数	1 一般角と弧度法 2 三角関数 3 三角関数の性質 4 三角関数のグラフ 5 三角関数の応用 6 加法定理	【知識・技能】 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解している。 【思考・判断・表現】 三角関数に関する様々な性質について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。				○	○	○	18
	定期考査						○	○		1
	3章 三角関数	1 加法定理の応用 2 三角関数の合成	【知識・技能】 三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解している。 【思考・判断・表現】 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。				○	○	○	12
	4章 指数関数・対数関数	1 指数法則 2 累乗根 3 指数の拡張 4 指数関数とそのグラフ 5 対数とその性質 6 対数関数とそのグラフ 7 常用対数	【知識・技能】 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 【思考・判断・表現】 指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。				○	○	○	20
	定期考査						○	○		1

3 学期	5章 微分と積分	1 微分係数 2 導関数 1 接線 2 関数の増減と極大・極小 3 関数の最大・最小 4 方程式・不等式への応用 1 不定積分 2 定積分 3 定積分と面積	【知識・技能】 微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 関数とその導関数との関係について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	24
	定期考査						
							合計
							140

年間授業計画

東京留米総合 高等学校 令和5年度 (2 年次用) 教科

数学

科目 数学B

教科: 数学 科目: 数学B

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 組~ 組

教科担当者: (組: 笠原) (組: 竹原) (組:) (組:) (組:) (組:)

使用教科書: (東京書籍 数学B Advanced)

教科 数学 の目標:

- 【知識及び技能】基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的【思考力、判断力、表現力等】命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度

科目 数学B の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力。確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力。日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数	
			知	思	態		
1 章 数列	1 数列 2 等差数列 3 等比数列	【知識・技能】 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 【思考・判断・表現】 事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を体系的に表現し考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	8	
	定期考査		○	○		1	
	1 章 数列	1 和の記号 Σ 2 階差数列 3 漸化式	【知識・技能】 漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 【思考・判断・表現】 事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
2 章 統計的な推測	1 数学的帰納法	【知識・技能】 数学的帰納法について理解している。 【思考・判断・表現】 自然数の性質を見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	6	
	2 章 統計的な推測	1 母集団と標本 2 確率変数と確率分布 3 確率変数の平均と分散	【知識・技能】 標本調査の考え方について理解している。 【思考・判断・表現】 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
2 章 統計的な推測	2 章 統計的な推測	1 確率変数の和と積 2 二項分布 3 正規分布	【知識・技能】 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
3 章 統計的な推測	2 章 統計的な推測	1 母集団の分布 2 標本平均の分布 3 母平均の推定 4 仮説検定の方法	【知識・技能】 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解している。 【思考・判断・表現】 標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
合計						70	

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2年次用）教科 国語 科目 選択古典探究

教科：国語 科目：選択古典探究 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 組～組
 教科担当者：（A1組：鈴木）（A2組：永井）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）
 使用教科書：（「精選古典探究 古文編」東京書籍 「精選古典探究 漢文編」東京書籍）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身につけさせる。

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める

【学びに向かう力、人間性等】我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 選択古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	古典文法の学習 【知識及び技能】 助動詞の接続、意味を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 本文中での意味の識別ができる 【学びに向かう力、人間性等】 古典文法を積極的に学ぶことができる	指導事項 ・既習事項の復習 ・助動詞の用法の理解 ・問題演習			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文法の用法を理解し、語感を磨くことができる 【思考・判断・表現】 古典特有の表現を理解できる 【主体的に学びに向かう姿勢】 文法知識を的確に活用しようとしている	○	○	○	6
	「小野篁、広才のこと」 【知識及び技能】 必要な語句の量を増やして語彙を豊かにする 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開的確に捉え、内容を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わう	指導事項 ・文学作品の特徴や文学史の理解 ・助動詞や敬語の基本的な用法の確認 ・人物や場面の描写の内容の確認	○	○	○	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やして語彙を豊かにしている 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、構成や展開的確に捉え、内容を理解することができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わい、内容を正確に読み取ろうとする	○	○	○	7
	定期考査				○		○	○		1
	「不死之薬」 【知識及び技能】 必要な語句の量を増やして語彙を豊かにする 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開的確に捉え、内容を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わう	指導事項 ・文学作品の特徴や文学史の理解 ・助動詞や敬語の基本的な用法の確認 ・人物や場面の描写の内容の確認	○	○	○	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やして語彙を豊かにしている 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、構成や展開的確に捉え、内容を理解することができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わい、内容を正確に読み取ろうとする	○	○	○	7
	「初冠」 【知識及び技能】 必要な語句の量を増やして語彙を豊かにする 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開的確に捉え、内容を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わう	指導事項 ・文学作品の特徴や文学史の理解 ・助動詞や敬語の基本的な用法の確認 ・人物や場面の描写の内容の確認	○	○	○	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やして語彙を豊かにしている 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、構成や展開的確に捉え、内容を理解することができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わい、内容を正確に読み取ろうとする	○	○	○	7
定期考査					○	○			1	
	古典文法の学習 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・既習事項の復習 ・助動詞の用法の理解 ・問題演習			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文法の用法を理解し、語感を磨くことができる 【思考・判断・表現】 古典特有の表現を理解できる 【主体的に学びに向かう姿勢】 文法知識を的確に活用しようとしている	○	○	○	6
	「猿蓑」 【知識及び技能】 必要な語句の量を増やして語彙を豊かにする 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開的確に捉え、内容を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わう	指導事項 ・文学作品の特徴や文学史の理解 ・助動詞や敬語の基本的な用法の確認 ・人物や場面の描写の内容の確認	○	○	○	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やして語彙を豊かにしている 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、構成や展開的確に捉え、内容を理解することができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わい、内容を正確に読み取ろうとする	○	○	○	8

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和5年度（2年次用） 教科

数学

科目 理数演習ⅡB

教科： 数学

科目： 理数演習ⅡB

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 組～ 組

教科担当者： (組： 笠原) (組： 竹原) (組：) (組：) (組：) (組：)

使用教科書： (東京書籍 数学Ⅱ Advanced)

教科 数学

の目標：

- 【知識及び技能】 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 理数演習ⅡB

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学期	1章 方程式・式と証明	1 3次式の乗法公式と因数分解 2 二項定理 3 多項式の除法 4 分数式とその計算 5 複素数とその演算 6 解の公式 7 解と係数の関係	【知識・技能】 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 【思考・判断・表現】 式の背理の立場を習得し学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を方程式・式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	1章 方程式・式と証明	1 因数定理 2 簡単な高次方程式 3 恒等式 4 不等式の証明	【知識・技能】 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 式の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を方程式・式と証明の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	6
	2章 図形と方程式	1 2点間の距離 2 内分点・外分点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 5 円の方程式	【知識・技能】 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表現することができる。 【思考・判断・表現】 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
2 学期	2章 図形と方程式	1 円と直線 2 軌跡の方程式 3 不等式の表す領域	【知識・技能】 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 【思考・判断・表現】 数値と図形との関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や軌跡の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	6
	3章 三角関数	1 一般角と弧度法 2 三角関数 3 三角関数の性質 4 三角関数のグラフ 5 三角関数の応用 6 加法定理	【知識・技能】 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解している。 【思考・判断・表現】 三角関数に関する様々な性質について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を三角関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1

教科： 情報

科目： ネットワークシステム

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 選択

教科担当者： (望月)

使用教科書： ([情報706]情報ネットワークシステム)

教科 情報

の目標：

【知識及び技能】情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識についての理解

【思考力、判断力、表現力等】事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に

【学びに向かう力、人間性等】情報社会との関わりについて考えながら改善しようとする。

科目 ネットワークシステム

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ネットワークシステムに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、要求をもとに合理的にネットワークを設計し、構築にその技術を適切に活用している。	安全で快適なネットワークシステムの利用と構築を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ネットワークシステムに携わる者として論理的に考えて判断し、正しく表現できる創造的な能力を身に付けている。	ネットワークシステムの利用や構築について関心を持ち、その改善・向上を目指して積極的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータネットワークで何が便利になるかを学ぶ。 ・社会で利用されているネットワークシステムを学ぶ。 ・ネットワークとそこから得られる情報が社会に及ぼす効果や影響を学ぶ。 ・ネットワークを利用する上での特有の課題を学ぶ。 ・クライアントサーバシステムなどのネットワークの基本的な形態を理解する。 	第1章 ネットワークの基礎 1節 ネットワークシステムとは	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク特有の課題を理解し、ネットワークシステムを利用することができるか。 ・ネットワークシステムが社会でどのように利用されているかを理解しているか。 ・ネットワークシステムを利用する上での課題を理解しているか。 ・ネットワークの基本的な形態を理解しているか。 	○	○	○	23
	<ul style="list-style-type: none"> ・UTPケーブルを中心に伝送媒体の特性を理解する。 ・ケーブルや無線で、ネットワークカードと各種の接続機器とが接続されて、ネットワークが構築されることを学ぶ。 ・ネットワークがプロトコルで動作することを学ぶ。 	2節 ネットワークを構成する要素	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・身近なネットワークシステムについて、社会での役割や使い方を適切に説明できるか。 ・身近なネットワークシステムの形態を適切に判断することができるか。 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ツリー型を中心にLANの接続形態を理解する。 ・クライアントサーバ型の形態を学ぶ。 ・CSMA/CD方式を中心にLANのアクセス制御を学ぶ。 ・OSI参照モデルを参考に通信プロトコルが階層構造になっている 	3節 ネットワークアーキテクチャ	【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークシステムの社会での利用とその効果について興味や関心を示しているか。 ・ネットワークの基本的な形態について関心を示しているか。 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・TCP/IPでのプロトコルの階層構造の働きを学ぶ。 ・MACアドレスとIPアドレスを使ったデータの転送を理解する。 ・IPアドレスとサブネットマスクの意味について理解する。 ・TCPでのデータの送信から受信までの手順を学ぶ。 ・ポート番号の役割を学ぶ。 ・IPv6のIPアドレスとIPv6の機能について理解する。 	第2章 TCP/IPとインターネット 1節 TCP/IP					
定期考査	考査			○	○		1
	<ul style="list-style-type: none"> ・LAN間接続機器の特徴を学ぶ。 ・ルータの役割とルーティングテーブルの意味を理解する。 ・インターネットで使われる各種サーバとそのサーバで実行されるプロトコルの役割を理解する。 ・インターネットへの接続方法を学ぶ。 ・QoS、クラウドコンピューティングなどインターネットに関連した技術を学ぶ。 	2節 インターネット	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの構成に従って、ルーティングテーブルを作成することができるか。 ・パケットが目的のIPアドレスにたどり着く経路を調べることができるか。 ・バックアップの種類による目的や対象等の違いについて理解しているか。 ・障害記録を残す必要性について理解しているか。 ・ネットワークやファイルシステムの多重化について理解しているか。 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・物理配線マップとアドレスマップを学ぶ。 ・通信量や待ち行列の計算方法を学ぶ。 	第3章 ネットワークの構築 1節 ネットワークの分析	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの構成や経路情報を基に、ルーティングテーブルを適切に表現することができるか。 ・LAN間接続の方法や目的に応じた機器を選択することができるか。 ・インターネットのサービスに応じて、サーバの種類やプロトコルを判断することができるか。 				

2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・UTPケーブルとハブを使用した小規模LANの設計方法を学ぶ。 ・無線LANを使用した小規模LANの設計方法を学ぶ。 ・ルータを使用した小規模LANの設計方法を学ぶ。 	2節 ネットワークの設計	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なパスワードと不適切なパスワードの違いを判断することができたか。 ・アクセス権の設定表を正しく表記することができるか。 ・公開鍵暗号方式での公開鍵と秘密鍵の使い方を判断することができるか。 ・不正侵入やマルウェアに対する基本的な対処や対策について考えることができるか。 	○	○	○	24	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの運用に必要な管理項目を理解する。 	第4章 ネットワークの運用と保守 1節 ネットワークの運用	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの仕組みや構成する機器に関心を示しているか。 ・インターネットのサービスに興味を示し、意欲的に学習しようとしているか。 ・インターネットへの接続方法に興味や関心を示しているか。 ・安全対策の方法について関心を持っているか。 ・不正侵入やマルウェアへの対策について関心を持っているか。 ・不正侵入やマルウェアによる被害などの事例に興味を示しているか。 ・ネットワークシステムの安全性を高めようとする態度を有しているか。 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期保守、事後保守、予防保守のために行う作業項目を学ぶ。 	2節 ネットワークの保守	<ul style="list-style-type: none"> ・不正侵入やマルウェアによる被害などの事例に興味を示しているか。 ・ネットワークシステムの安全性を高めようとする態度を有しているか。 					
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策に必要な項目を学ぶ。 ・不正アクセス防止のための対策を学ぶ。 ・マルウェア感染の予防、感染したときの処置方法を学ぶ。 	3節 ネットワークの安全対策	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変調方式、符号化方式、誤り制御等のデータ伝送の基本的な技術を理解しているか。 ・圧縮方式と伝送されるデータの種類について理解しているか。 ・回線の接続形態や接続制御について理解しているか。 ・伝送制御とその手順について理解しているか。 ・データ伝送に関する用語について正しく理解しているか。 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気通信サービスとそこで使われる機器の役割を学ぶ。 	第5章 データ通信関連技術 1節 データ通信の技術	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変調方式について区別することができるか。 ・符号化の手順とその役割を説明することができるか。 ・誤り制御の必要性について考えることができるか。 ・伝送するデータの種類に応じた圧縮方式を選択することができるか。 ・伝送制御手順におけるデータの扱い方の違いを表現できるか。 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・データ伝送のための変調、符号化、誤り制御、同期制御の概要を学ぶ。 ・伝送制御のため接続形態、伝送制御手順の特徴を学ぶ。 	2節 関連技術	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ伝送における基本的な技術について関心を示しているか。 ・伝送制御における基本的な技術について関心を示しているか。 	○	○	○	22	
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気通信事業者、電波法の概要を学ぶ。 	3節 ネットワーク関連法規						
							合計	70

教科： 情報

科目： 情報デザイン

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 選択

教科担当者： (望月)

使用教科書： ([情報705]情報デザイン)

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識についての理解

【思考力、判断力、表現力等】事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に

【学びに向かう力、人間性等】情報社会との関わりについて考えながら改善しようとする。

科目 情報デザイン の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
情報伝達やコミュニケーションと情報デザインとの関係について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	情報デザインの手法、構成、活用に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	情報デザインによる効果的な情報伝達やコミュニケーションの実現を目指して自ら学び、コンテンツやユーザインタフェースのデザインなどの構築に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A デザインって何だろう ・デザインにとって大切なことは何かを意識してみる。 ・デザインが人間生活のさまざまな目的を達成するための合目的行為であることを理解する。 ・有意義なデザインにするためには、見ただけのよさだけにとらわれるのではなく、倫理観や社会的意識をもって、社会に及ぼす影響を考慮する姿勢が大切であることを理解する。 ・人間どうしのコミュニケーションの始まりはシンボルを共有するところから発展していったことを理解する。	・何のためのデザイン ・社会の中のデザイン ・デザインの手順 パソコン室の端末と1人1台端末	【知識・技能】 ・社会におけるデザインの役割や対象について理解している。 ・デザインのプロセスについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・人間中心設計のデザインを考えることができる。 ・デザインによる課題解決の事例を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・社会におけるデザインの果たす役割について、自ら学ぼうとしている。 ・デザインのプロセスを用いて、主体的に課題の発見や解決の振り返りに取り組もうとしている。	○	○	○	10
	B 何をデザインするのか ・情報があふれる時代の中で、情報の受け手としては必要な情報を選択し、送り手としてはわかりやすく表現して伝えることが必要であることを理解する。 ・絵文字から表音文字、粘土板から紙、印刷技術による情報の伝達と共有が、人類に大きな力を与えていったことを理解する。 ・コミュニケーションモデルを理解し、表現の文脈に込められたメッセージを読み解く姿勢、送り手と受け手の間でどのような体験を共有できるかに配慮する姿勢が大切であることを理解する。	・何かを伝えるデザイン ・コミュニケーションのモデル	【知識・技能】 ・情報デザインの意義や役割、対象について理解している。 ・コミュニケーションモデルについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・効果的に課題を解決するための情報デザインを考えることができる。 ・情報の送受信をコミュニケーションモデルで説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報デザインの対象について、自ら学ぼうとしている。 ・コミュニケーションのモデルを用いて、自らの情報伝達やコミュニケーションの活動を振り返り、改善しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査	考査		○	○		1
2 学 期	A デザインの造形要素と構成 ・造形の基礎となる要素「形態」と「色彩」を分析し、見る人の視点での心の動きを理解する。 ・基本形態（純粋形態）として点・線・面、さらには立体・空間の造形的意味を理解する。 ・配色を効果的に利用するため、色と光の関係、光の三原色、色の三原色、色の三属性など色彩のもつ意味を理解する。 ・形態と色彩の学びから見る人の視点でのさまざまな心理的な効果を理解する。	・形態 ・色彩 ・造形と心理 ・構成の基礎となる手法 ・コミュニケーションの演出	【知識・技能】 ・色彩を使った表現が人間の心理に与える影響について理解している。 ・造形が人間の心理に与える影響について理解している。 【思考・判断・表現】 ・造形や色彩が人間の心理に与える影響を考慮して、課題解決に向けて造形や色彩を適切に選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・造形や色彩の要素を考慮して、自ら情報伝達やコミュニケーションの活動を振り返り、改善しようとしている。	○	○	○	14
	B デザインの観察と検討 ・自然物や人工物、事象などを対象とし、目に見える動きや見えない感性の変化を理解し、全体や部分の観察、時間の経過での変化のプロセスも学び、さまざまな観察の視点を理解する。 ・具象から抽象までの四つの視点を学び、効果的に表現する造形の手法や質感的表現を体験を通して理解する。 ・アイデアとは目的を果たすための工夫であると認識し、目的意識をもって現状を観察し、問題点を分析するプロセスを経てアイデアを出し合い、グループワークを通して思考を活性化していくことを理解する。 ・デザインを検討するための、情報収集の手法について理解する。 ・収集した情報をもとに、デザインのコンセプトを考えるための手法について理解する。	・観察してみよう ・表現への過程 ・情報の収集 ・コンセプトを考える ・情報を組み立てる	【知識・技能】 ・観察の方法や視点について理解している。 ・観察の結果を表現するときの考え方について理解している。 【思考・判断・表現】 ・観察の方法や視点を変えて対象を観察することができる。 ・情報デザインの具体例から、造形の基本となる手法や表現技法を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・観察の方法や視点について関心をもち、ねばり強く観察に取り組もうとする。 ・造形や表現技法の視点から、自らの表現活動を振り返り、改善しようとしている。	○	○	○	14

3 学 期	A デザインの活用 ・デザインが人の気持ちを動かし、それによって社会に影響を及ぼすことを理解する。 ・社会における情報デザインの役割を踏まえ、システムとしてのデザインを学び、デザインに関する権利についても理解する。 ・さまざまな人へ情報を届けるための手法や各メディアの違いを理解し、考える力を身に付ける。 ・スケッチ、ワイヤーフレーム、プロトタイプといったインタラクティブデザインの手順と考え方を理解する。	・デザインが目指すもの ・ビジュアルデザイン ・インタラクティブメディアのデザイン	【知識・技能】 ・情報デザインの役割やインタフェースの工夫、デザインにかかわる権利について理解している。 ・インフォグラフィックスやWebページなどメディアのビジュアルデザインについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・社会や身のまわりの情報伝達やコミュニケーションの課題について、発見することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・目的を踏まえ、情報デザインを用いた課題の解決に、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	B 総合演習 ・学級新聞や、クラスのWeb ページ作成を通して、情報をよりよく理解してもらうための工夫の一つとしての情報デザインの意義を理解する。 ・グループワークを中心に、ショップのトータルなデザインを行い、ポスターやリーフレットなどさまざまなデザインが相互に関連し、統一されたメッセージを発信することを理解する。	・いろいろなメディアをデザインする ・ポスター、リーフレットをデザインする	【知識・技能】 ・お店と顧客をつなぐショップカードやポスターなどのコミュニケーションメディアや、Webサイトをデザインする技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・習得した知識や技能を活用してコミュニケーションメディアやWebサイトをデザインし、ショップの活性化の課題を解決することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コミュニケーションメディアやWebサイトのデザインを自ら行い、情報メディアを用いたショップ活性化の課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	13
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和5年度 教科

芸術

科目 声楽（選択）

教科：芸術

科目：声楽（選択）

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組 第 3 学年 1 組～ 5 組

教科担当者：（矢澤 知壽子）（和田 紳一）

使用教材：（The Basics of Music 2改訂版）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 声楽（選択）

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表現することを目標とする。	音楽をどのように表すかについて表現意図を持ち、評価しながら良さや美しさを味わって聞くことができる。	音や音楽、音楽文化と豊かに関り主体的・対話的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことを目標とする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創						
年間を通して腹式呼吸、コンコーネを学ぶ。	・声楽に必要な身体の知識 ・コンコーネ練習	○			○	・発声法を学び、歌う事の楽しさを知ることができたか。	○	○	○	8
・声楽の歴史を学ぶ。 ・声種の違いを学ぶ。	・グレゴリア聖歌 ・カストラート歌唱の鑑賞 ・有名オペラのアリアの鑑賞 ・端末の利用	○			○	・声楽のルーツを学ぶことができたか。 ・個々の声質の違いを理解することができたか。 ・スムーズに端末で調べ学習ができたか。	○	○	○	8
・実技テスト ・レポート提出	・歌の実技テストと様々な鑑賞のレポート作成	○			○	・意欲的に実技テストに望めたか。 ・意欲的にレポート作成ができたか。	○	○	○	4
2 学 期	・ドイツ歌曲 イタリア歌曲				○	・それぞれの国の曲の特色を学び、言語も学ぶことができたか。 ・ハーモニーを学ぶことができたか。	○	○	○	20
	・日本歌曲 ・実技テスト ・レポート提出	・重唱			○	・意欲的に実技テストに望めたか。 ・意欲的にレポート作成ができたか。	○	○	○	20
3 学 期	オペラ、オペレッタ、ミュージカル				○	・ストーリーや背景を理解し、その上で歌唱法の練習方法を学ぶことができたか。	○	○	○	8
	・実技テスト ・レポート提出				○	・意欲的に実技テストに望めたか。 ・意欲的にレポート作成ができたか。	○	○	○	2
										合計
										70

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和5年度 (2学年用) 教科

芸術

科目

ビジュアルデザイン

教科: 芸術

科目: ビジュアルデザイン

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組～

6 組

教科担当者:

大竹

使用教科書: ()

教科 芸術 の目標: 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 ビジュアルデザイン の目標: 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や芸術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や芸術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		絵 ・ 彫	デ 映	鑑 賞					
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	○		○				
	色彩基礎、色彩構成	基礎的な技術を身につける。 一般的な色彩についての段階を知り、実践する。	○		○				11
	色彩基礎、色彩構成	基礎的な技術を身につける。 一般的な作品制作の段階を知り、実践する。 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵ではなく言葉で表現することを重視する。	○		○				3
	イラストと文字	絵と字のデザインについての技術を身につける。	○		○				11
2 学 期	PCデザイン	イラレ、フォトショップによるデザイン技術を身につける。 PCによるデザイン制作の段階を知り、実践する。 しっかりとした構想を持ち表現することを重視する。	○		○				11
	石膏デッサン	イラレ、フォトショップによるデザイン技術を身につける。 PCによるデザイン制作の段階を知り、実践する。 しっかりとした構想を持ち表現することを重視する。	○		○				14
3 学 期	本装丁	本の装丁を行い、見やすいデザイン技術を身につける。 デザイン創作段階を知り、実践する。 しっかりとした構想することを重視する。	○		○				9
	本装丁	本の装丁を行い、見やすいデザイン技術を身につける。 デザイン創作段階を知り、実践する。 しっかりとした構想することを重視する。	○		○				11
									合計
									70

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

芸術

科目 クラフトデザイン

教科： 芸術

科目： クラフトデザイン

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～

6 組

教科担当者：

儀部 佳織

使用教科書：（

）

教科 芸術

の目標： 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 クラフトデザイン

の目標： 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や芸術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の動きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や芸術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配当 時数
		絵・彫	手	鑑賞					
1 学期	文化祭の展示を目標に、グループ活動を通じて、仕掛けのある立体物（ガチャガチャ）を制作する。	オリエンテーションを通じ、コミュニケーションを図る。また、ICTを活用し、制作方法を主体的に模索する。	○		○				
	文化祭の展示を目標に、グループ活動を通じて、仕掛けのある立体物（ガチャガチャ）を制作する。	試作品の制作を通して、グループで課題を分析する。構想を練り、膨らませる。制作する上で必要な素材を研究する。	○		○				11
	文化祭の展示を目標に、グループ活動を通じて、仕掛けのある立体物（ガチャガチャ）を制作する。	素材を収集し、グループで制作を進める。グループ内で課題を分析する。構想を練り、膨らませる。	○		○				3
	文化祭の展示を目標に、グループ活動を通じて、仕掛けのある立体物（ガチャガチャ）を制作する。	素材を収集し、グループで制作を進める。グループ内で課題を分析する。構想を練り、膨らませる。	○		○				11
2 学期	文化祭展示	より鑑賞者に楽しんでもらえる工夫を空間まで意識して、構築する。	○		○				11
	彫塑が可能な粘土を加工し、オリジナルのキャンドルハウスを制作する。制作を通して、立体構造について認識を高め、道具を適切に扱うことで、自己の表現を追求する姿勢を養う。	立体的な構想をできるようにする。制作を通して、自己の表現美を追求する。	○		○				14
3 学期	彫塑が可能な粘土を加工し、オリジナルのキャンドルハウスを制作する。制作を通して、立体構造について認識を高め、道具を適切に扱うことで、自己の表現を追求する姿勢を養う。	・立体的な構想をできるようにする。制作を通して、自己の表現を追求する。 ・友人の作品の良さを感じ取り、自己の作品に生かそうとする。	○		○				9
	彫塑が可能な粘土を加工し、オリジナルのキャンドルハウスを制作する。制作を通して、立体構造について認識を高め、道具を適切に扱うことで、自己の表現を追求する姿勢を養う。	・立体的な構想をできるようにする。制作を通して、自己の表現を追求する。 ・アクリル絵具で着色を行うことで、絵具や道具の適切な扱いを身に付ける。	○		○				11
									合計
									70

高等学校 令和5年度（2年次用）教科 外国語 科目 総合英語

教科：外国語 科目：総合英語 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～6組
 教科担当者：（1～6組：池田、小西）
 使用教科書：（Switch 1（文英堂）Listening Laboratory（数研出版））

教科 外国語 の目標：
 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 総合英語 の目標：
 ・長文読解を通じて、言語の働きへの理解を深める。
 ・書き手の意図を的確に理解し、自分の考えや意見を述べることができる。
 ・文化に対する理解を深め、よりよい社会の実現に向けて行動しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
読むことを通じて、語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、状況に応じて適切に活用できるようにする。	様々な題材の英文から情報を収集したり、書き手の意図を理解したりする活動を通して、自分の意見を再構築して表現することができる力を養う。	書き手の気持ちに配慮しながら、背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 （ ） 話 （ ） 書	話 （ ） 話 （ ） 書	書					
1 学 期	単元 Switch Unit1~Unit2 Listening Laboratory 1～2 【知識及び技能】 同意文への書き換え 動詞の働き 【思考力、判断力、表現力等】 環境問題について自己を振り返り、今後の行動について述べる ことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 環境問題や文化の違いについて理 解を深め、どのようにすればより よい社会にできるか考えを深め る。	・指導事項 <長文>文脈から単語の意味を推測する <文法>同意文への書き換え ・教材 The polar bear Traveling back to my hometown ・画像や映像を用いて、テキストの内容理解を深める。 ・グループ活動で他者と自分の意見を比較し、新たな考えを創出する。	○	○	○	○	○				12
	定期考査		○	○		○					1
	単元 Switch Unit3~Unit5 Listening Laboratory 3～6 【知識及び技能】 指示代名詞、人称代名詞、仮定法過去を含む構文 【思考力、判断力、表現力等】 長文を段落や意味のまとまりで区切ることに、適当に理解することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日本や海外の現状や歴史を知り、文化に対する理解を深める。	・指導事項 <長文>文の構造をおさえ、内容を理解する、イラストから文脈を読み取る <文法>指示代名詞、人称代名詞、仮定法過去を含む構文 ・教材 Australia 500yen coins Tennis ・画像や映像を用いて、テキストの内容理解を深める。 ・調べ学習を行うことにより、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	○	○		○	○				12
定期考査		○	○		○					1	
2 学 期	単元 Switch Unit6~Unit8 Listening Laboratory 7～10 【知識及び技能】 名詞を修飾する分詞、2種類の接続詞、SVOC構文 【思考力、判断力、表現力等】 多くの情報から、必要な情報を取り出すことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 異文化の生活について理解を深め、もし自分たちならばどのような行動をするか具体的な案について話し合うことができる。	・指導事項 <長文>時系列を把握する、トーンから筆者の意見を読み取る <文法>名詞を修飾する分詞、2種類の接続詞、SVOC構文 ・教材 Online Shopping The Olympic Games Sahara ・画像や映像を用いて、テキストの内容理解を深める。 ・自分の立場に置き換え、グループで意見を比較し、事故の生き方について考えを深める。	○	○	○						12
	定期考査		○	○		○					1

前期	Switch Unit9~Unit11 Listening Laboratory 11~14 【知識及び技能】 SV00構文、関係代名詞の格 【思考力、判断力、表現力等】 身近な問題について関心を深め、 解決策について、自分の意見を述 べることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な問題に対する様々な人の意 見を聞き、よりよい解決策を考え ようと努めている。	・指導事項 ＜長文＞記事からテーマを把握す る。要素と要素のつながりを把握 する ＜文法＞SV00構文、関係代名詞の 格 ・教材 Getting to Downtown A baseball player A pet ・画像や映像を用いて、テキスト の内容理解を深める。 ・グループ活動において、書き手 と自分の意見、そして友人の考え を比較し、最適な解決策を提案す る。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
	定期考査		○	○										1
3 学期	Switch Unit12~Unit15 Listening Laboratory 15~20 【知識及び技能】 形式主語itの構文、不定詞、部分 否定の構文 【思考力、判断力、表現力等】 国際的な問題について関心を深 め、自分の意見を述べることがで きる。 【学びに向かう力、人間性等】 国際的な問題に対する人々の行動 を知り、自分たちにもできること はないかと考えを深めることがで きる。	・指導事項 ＜長文＞各段落の内容をまとめ る。筆者の考えを理解する。 ＜文法＞、形式主語itの構文、不 定詞、部分否定の構文 ・教材 Yakushima Island The statue of liberty Smile ・画像や映像を用いて、テキスト の内容理解を深める。 ・社会的な問題を現在の国際情勢 と関連させ、他人事ではなく自分 たちのこととして考えを深める。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17
	定期考査		○	○										1
													合計	70

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和5年度（2・3年次用） 教科

外国語

科目

Global Communication

教科： 外国語

科目： Global Communication

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組 第 3 学年 1 組～ 5 組

教科担当者：（植田・RD） （組： ） （組： ） （組： ） （組： ） （組： ）

使用教科書：（Stretch 1）

教科 外国語

の目標：

- 【知識及び技能】 本文の内容を読み取ったり、聞き取ったりするのに必要な基本的知識・技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書いたりできる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 主体的にペアで話し合ったり、発表しようとしている。また、学習について振り返りができる。

科目 Global Communication

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・ネイティブ主体の授業で、BBCニュース等を通して英語圏の話題に触れながら、基本的なコミュニケーションをとるために必要とされる文法・語彙力を養い、本文の内容を読み取ったり、聞き取ったりする力を身に付ける。	・頻出の定型表現、つなぎ言葉、英文パラグラフの構造を理解したうえで、文章を書くことができる。 ・英語の音声に気をつけながら、ペアで会話をしたり、非言語コミュニケーションに留意しながら、自分の意見を発表することができる。	・ペアワークで主体的に話し合ったり、仲間や先生に適切な質問をすることができる。 ・真意が伝わらない時でも、言い換え等を用いながら、あきらめずにコミュニケーションを続けることができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
1 学 期	・Wh疑問文やintroductionの仕方を理解したうえで、聞く・読む・書く・話すことができる。	・Wh疑問文やintroductionの仕方を理解し、4技能の活動を行う。 ・将来やりたい仕事に関して、プレゼンテーションを行う。 ・Unit1の小テスト（語彙・リーディング） ・副教材、プリント、辞書 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	12
	・現在形の疑問文や交通手段の説明の仕方を理解したうえで、聞く・読む・書く・話すことができる。	・現在形や交通手段の説明を理解し、4技能の活動を行う。 ・ルーティンに関して、プレゼンテーションを行う。 ・Unit2の小テスト（語彙・リーディング） ・副教材、プリント、辞書 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	14
2 学 期	・現在進行形・代名詞や日常生活・予定に関する説明の仕方を理解したうえで、聞く・読む・書く・話すことができる。	・現在進行形・代名詞や日常生活・予定に関する説明を理解し、4技能の活動を行う。 ・趣味・自分が幸せと感じることに関して、プレゼンテーションを行う。 ・Unit3・4の小テスト（語彙・リーディング） ・副教材、プリント、辞書 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	18
	・過去形や週末したことに関する説明の仕方を理解したうえで、聞く・読む・書く・話すことができる。	・過去形や週末の説明を理解し、4技能の活動を行う。 ・週末に関して、プレゼンテーションを行う。 ・Unit5の小テスト（語彙・リーディング） ・副教材、プリント、辞書 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	14
3 学 期	・前置詞句や道順の説明の仕方を理解したうえで、聞く・読む・書く・話すことができる。	・前置詞句や道順の説明を理解し、4技能の活動を行う。 ・自分の住んでいる所に関して、プレゼンテーションを行う。 ・Unit6の小テスト（語彙・リーディング） ・副教材、プリント、辞書 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	12
										合計	70